

感謝 (2~5面)

寄附から育んでいく
支え合いの地域づくり



▶ 今月の表紙 温かい見守り優しい声かけ

第36回ともしびポスターコンテストで「ともしび大賞」を受賞した麻生千咲都さん（横浜市立相武山小学校6年）。

盲導犬を育てるパピーウォーカーとしての経験から、福祉が身近なものになっていった。視覚障害のある方とのふれ合いを通じて、暮らしのなかで大切なことは、相手の気持ちをくんだ見守りと声かけだと気づくことができたと言います。そのまっすぐな瞳の中に自然な温かさを感じた。

〈撮影・菊地信夫〉

年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

戦後70年の節目となった昨年は、北陸新幹線の開業やラグビーワールドカップ3勝の歴史的快挙に日本中が沸き上がりました。一方で、関東・東北集中豪雨による被害や川崎・大阪寝屋川の中学生殺害事件などに大きな衝撃を受け、痛ましい出来事に社会が揺らいだ年でもありました。

福祉分野では、昨年4月に生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て支援新制度がスタートするとともに、地域包括ケアの推進に向けた介護保険制度の改正が進められ、また、本年は障害者差別解消法や改正障害者雇用促進法の施行など、大きな転換期を迎えています。

地域社会に目を向けると、少子高齢化と人口減少、单身世帯やひとり親世帯の増加、長引く厳しい経済雇用情勢、家庭や地域の支え合い機能の低下などにより、貧困の連鎖や生きづらさを抱えた人々の孤立など、制度の狭間にある福祉・生活課題は、より深刻さを増しています。

また、いわゆる団塊の世代が後期高齢期を迎え、介護ニーズが増大すると予測される2025年を控えた福祉・介護人材の確保、子ども・子育てに関する支援、障害のある人などの地域生活移行・定着支援の充実など、多様な福祉サービスの提供体制なども喫緊の課題となっています。

このような状況の中、本会では、平成28年度を初年度とする4年間の次期活動推進計画の策定に向けて準備を進めております。

社会福祉制度・施策の充実のもとより、私ども社会福祉関係者が、その持てる力を結集して、地域での支え合い・助け合い活動を基盤とした地域づくりをより一層進めていくことが大切です。できる人が、できる時に、できる所で、できることに取り組むことで、次期活動推進計画の基本理念「住民の主体的参加と様々な主体との協働による誰もが安心して生活できる地域づくりの推進」が実現できるものと考えております。

本年も皆様のお力添えを賜りながら、地域福祉の推進に努めてまいりますので、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治

寄附から育んでいく支え合いの地域づくり

温かい心を寄せる参加の形

本会では、ともしび基金をはじめ、かながわ交通遺児援護基金、かながわ子ども福祉基金、萬谷児童福祉基金等への寄附金とともに、多様な物品の寄贈等をいただきながら、さまざまな場面で地域福祉の推進に活用させていただいています。

寄附や寄贈も福祉活動への一つの大切な参加の形です。今号では各種基金の紹介や活用状況を報告させていただくとともに、昨年12月に温かい心をお寄せくださいました皆さまをご紹介いたします。

住民主体の活動の充実に向けて

【ともしび基金】

毎年12月は、ともしび基金の集結を実施。ともしび基金箱の設置については、県内のスーパーやボウリング場、公衆浴場、JA（農協）、ともしびショップ、病院、神奈川県下の警察署、県の行政機関窓口等にご協力いただいています。

このともしび基金は、「ともに生きる福祉社会づくり」の推進を目的に昭和52年6月に創設され、福祉意識の啓発や地域での支え合い活動への

助成等を行ってきました。地域福祉の普及啓発、ボランティア活動の支援、障害のある方の社会参加促進、市町村域での地域福祉の推進等、時代の流れに沿った新たな事業の実践や住民の自主的活動へ支援の輪を広げながら、その歩みは続いています。

ともしび基金は創設以来、県民の皆さまに育てられ、平成27年11月末現在で原資が23億1千736万円となりました。

ともしび基金を活用した事業の一つ、「地域福祉活動支援事業」では、今年度は依存症や若年性認知症の方によるミーティング、外国につながる子どもの生活・学習サポートや東日本大震災避難者支援、生活困窮者支援の一環として寄附物品のリサイクルや子どもへの学習支援等、56の県内当事者グループや広域的なボランティアグループ等の取り組みを支援しています。

このように、あるテーマに焦点を当てたものや地域の課題に応じたもの、制度施策を見据えたもの等さまざまですが、いずれも住民が主体となり、地域の課題解決も期待される有意義な取り組みです。

今後も、一人ひとりが互いに理解

し合い、いきいきと安心して毎日が過ごせる地域づくりに支援をしています。

子どもたちの自立に向けた支援

「かながわ交通遺児援護基金」

交通事故等による20歳未満の遺児とその世帯を対象に①小・中学校入学時、中学校・高等学校卒業時の奨励金の支給、②労災見舞金の支給を受けていない世帯への見舞金の支給、③関係団体活動費の助成、④親子交流会等の招待事業を実施します。平成26年度に、県民の皆さまや企業等から寄せられた寄附金は、13件(481万2千325円)となり、遺児らへの奨励金として52件(260万円)、見舞金4件(40万円)を支給させていただきました。

「かながわ子ども福祉基金」

「萬谷児童福祉基金」

さまざまな理由で親と共に生活することができず、県内の児童養護施設等や里親のもとで生活している社会的養護を必要とする子どもを対象にした基金を設置しています。

かながわ子ども福祉基金では①私立幼稚園への入園や私立高等学校へ入学する際の奨励金の支給、②初めて民間アパートへ入居する際の自立支援金の支給、③施設長や里親による身元保証の損害賠償事業等に活用しています。

平成26年度の奨励金は、延べ1千386件(幼稚園414件、高等学校972件)、自立支援金は延べ81件の支給をすることができました。



萬谷児童福祉基金では、4年制大学、短期大学、専門学校等へ入学する際の支度金の支給を行っています。故・萬谷富子氏より「児童養護施設を終えた者の進学又は自立の援助に」と遺贈された原資をもとに平成19年に創設され、基金果実(利息)のみで運用し、平成26年度までに74人が進学する等、人生の次のステップに進む支援をすることができました。

また、寄附金以外にも施設利用者の送迎などを目的とした福祉車両の寄贈や、クリスマスケーキ、アイスクリームなどの季節感のある寄贈、ミュージカルや野球観戦といった招待など、高齢者・障害者・児童福祉等の各種福祉施設利用者の充実した生活環境づくりにお力添えをいただいております。

本会では、今後も寄附者の意向に沿った寄附金の受入れと配分に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

ともしび基金への寄附をはじめ、皆さまの温かい心に感謝申し上げます！

【ともしび基金】 ▽脇隆志▽いなり湯▽喜久の湯▽第二常盤湯▽千代田湯▽(-財)光之村▽(-社)かながわ土地建物保全協会▽(-財)神奈川県厚生福利振興会▽(公財)積善会介護老人保健施設リバーイースト▽(福)神奈川県社会福祉事業団横須賀老人ホーム▽(福)神奈川県総合リハビリテーション事業団▽(福)湘南福祉協会総合病院湘南病院▽JA神奈川県信連▽JA横浜▽JA湘南▽JAかながわ西湘▽JAさがみ倉見支店▽ともしびショップ喫茶あーす▽ともしびショップマリナ▽ともしびショップなのはな▽県民センターともしびショップ▽ともしびショップさくら運営委員会▽ともしびショップゆめ散歩▽ともしびショップ保健福祉大学▽湘南モノレール(株)湘南ボウル▽昭和大学保健医療学部看護学科教職員一同▽メナード東中条▽ゴルフガーデンフォレスト▽そうてつローゼン港南台店▽(福)箱根町社会福祉協議会▽(公財)神奈川県身体障害者連合会▽(公財)神奈川県老人クラブ連合会▽(-社)神奈川県高齢者福祉施設協議会▽(N)フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会▽神奈川県心身障害児者父母の会連盟▽神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会▽(-社)神奈川県保育会▽神奈川県保育士会▽神奈川県ゆりの会▽神奈川県医療福祉施設協同組合▽(公財)神奈川県福利協会▽(N)神奈川県ホームヘルプ協会▽神奈川県交通遺児家庭の会▽(N)神奈川県障害者地域作業所連絡協議会▽神奈川県手をつなぐ育成会▽神奈川県知的障害施設団体連合会▽やまゆり知的障害児者生活サポート協会▽(公社)神奈川県社会福祉士会▽神奈川県警察職員一同▽神奈川県職員一同▽(福)神奈川県共同募金会職員一同▽本会職員一同▽県民センター募金箱 **【子ども福祉基金】** ▽(株)タックルベリー▽荒谷昭子 **【交通遺児援護基金】** ▽神奈川県石油業協同組合▽青木繁弘 (各種基金合計913,750円)

【寄附物品】 ▽神奈川トヨタ自動車(株)▽東亜建設工業(株)横浜支店▽(公財)報知社会福祉事業団▽(N)日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」▽(株)カレンズ▽あゆみの箱▽神奈川県定年問題研究会▽神奈川県警察職員一同▽神奈川県職員一同 (いずれも順不同、敬称略)



(一財)光之村よりともしび基金へご寄附いただき、岡崎芳子理事長(左)に感謝状を贈呈



(株)タックルベリーより子ども福祉基金へご寄附いただき、藤本伸也代表取締役(右)に感謝状を贈呈



神奈川トヨタ自動車(株)より県内児童養護施設等へクリスマスケーキをいただき、黒澤宏康室長(左)へ感謝状を贈呈



(N)日産労連NPOセンター「ゆうらいふ21」より県内児童養護施設等へミュージカル公演招待券をいただき、吉坂義正本部長(左)へ感謝状を贈呈

世代を超えて受け継いで いききたいーともしびの心

障害のある人もない人も、高齢者も若者も、国籍が違っても、手を携えて歩むことのできる「ともに生きる福祉社会づくり」を目指して、昭和51年に当時の県知事であった故・長州一二氏によって提唱されたともしび運動。

川崎市に在住で、障害のあるお子さんを育てているあるご夫婦から、県へ「社会福祉に有意義に役立ててください」と寄附されたことがきっかけとなり、このお気持ちを経営的、永続的に生かして行こうと、運動を支える財源として、昭和52年にともしび基金が創設されました。

本会では、この基金の果実（利子）を活用しながら、さまざまな取り組みを行っています【2・3面参照】。その一つに、子どもたちの目線とともに生きることを描く「ともしびポスター・絵本コンテスト」があります。この事業も運動の長い歴史とともに成長し、歩み続けてきた取り組みの一つで、子どもたちの純粋で飾らないメッセージは、世代を超えた共感を生み、それらを目にした多くの人々に感動を与えてきました。同時に福祉とは何かを学び、大人も子どもも考えを深める機会ともなりました。

「ともしび」には、優しさや思いやり、助け合いや支え合い、絆やつながり、心のバリアフリーなど数多くの意味が込められています。

昭和55年に始まったポスターコンテスト（当初はポスター原画コンテスト）は36年間で3万9千256点。昭和62年から始まった絵本コンテストには29年間で5千434点もの心のこもった作品を寄せていただきました。

夏休みの宿題として、また、卒業の記念に友達と合作で、福祉を身近に感じたからなど応募のきっかけはそれぞれ異なりますが、長い歴史の中で、親子や兄弟姉妹で入賞という嬉しい知らせを受け取ることもありました。そんな時、世代を超え、人から人へとともしびの心が受け継がれていることを実感します。

ポスター・絵本コンテストは、長年の取り組みで一定の成果を得たとの評価から、今年度もをもって終了し、神奈川県福祉作文コンクールに事業を一本化することとなりました。

これまでたくさん作品をご応募いただき、ともしびの心を受け継いでこられたことに深く感謝申し上げますとともに、本会では、今後もさまざまな形でともしびの心を伝え、育んでいきたいと考えています。

（地域福祉推進担当）

企画調整・情報提供担当

コンテストの審査委員長を長く務めた画家 故・土田邦彦氏は、その著書の中で次のように記しています。

絵本にみる感性豊かな子どもたち

（前略）私は社会福祉界から巣立った画家としての立場で最初から関わってきたが、それら応募作品から、私は随分と学ばせてもらってきた。何と今の子どもたちは感性豊かで現実の社会を見つめ、未来の夢を語ってくれるのかと、毎回審査のたびに思うのである。中には連続入選の子どもたちやきょうだいの共同作品などもあって、嬉しくなるが、その中で長谷川有似さんの絵本を取り上げてみよう。

この春、高校を卒業し、大学進学予定の長谷川有似さんは、小学2年生のとき、担任の先生の勧めで応募を始め、高校3年生まで絵本の部で連続入賞をしている。それらの作品に目を通して見て、大人の我々への気づきのメッセージのように感じるのである。

小2から小6までの絵本は、具体的な身体に障害を持っている人たちをテーマにした物語が主で、中1からは心のバリアフリー、人間の死を見つめ生きることの大切さなど、内面的な問題を提起しているものが多くなっている。やはり長谷川有似さんの成長に応じて変化してきたと思うのだが、少し、物語の中からピックアップしてみよう。

一 高1、小6、中1、中2、高3の順に、文で作品を紹介 一

この「生まれてきてよかったね」は、長谷川有似さんにとっては最後の作品となる。ここで実際の作品がお見せ出来ないのが残念である。中学、高校の時代の作品には点字と英文が添えられており、物語の構成の素晴らしさと絵本としてのアイデアがふんだんに盛り込まれているのである。

2005年11月、表彰式のあと長谷川有似さんにインタビューした。

「大学を卒業してからの夢は？」

「小学校の先生になるんです」と目を輝かせていた。

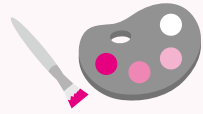
私は内心、絵本作家になりたいです、と答えてくれるのを期待していたのであったが、そうだ、小学校の先生になるなんて、素晴らしい！と思い直したのであった。（後略）

（出典「画家の随想録」文芸社より一部抜粋。原文は縦書き、漢数字で表記）



きょうだいで取り組んだ ともしびポスター・絵本コンテスト

作品と向き合い、思いやりの心を育む



きょうだいで毎年ともしびポスター・絵本コンテストに応募して、全員が「ともしび大賞」を受賞された石川さんのお宅を訪ねました。取材当日はきょうだい4人が集まり、作品を囲んで思い出話に花が咲きました。

毎年恒例 家族みんなで作品づくり

毎年かさず応募してくれた皆さん。長女の翔子さんが友達に誘われたことがきっかけで、絵本づくりを始めました。お姉さんの影響で、続くようにきょうだい皆でポスターや絵本を作り始めました。

4人全員が絵を書くことやモノづくりが好きということも重なり、夏休みにポスターや絵本を作ることが毎年恒例になっていきました。一緒に取り組むことで画材や絵本の材料を共有することができたため、これまで続けることができたそうです。

家族みんなで「こうしよう、ああしよう」と絵の構図について意見を交わし、内容が重ならないよう工夫をしました。楽しみながら作品づくりをできたことが、良い思い出へとつながっています。

自然と学んだ当事者の方の目線

末っ子の穂子さんが絵本を作るうえで考えたのが、障害のある人の気持ち。それは、幼い頃より、自然と受け入れやすい環境にありました。

美容師をしている母のもとに通っていたお子さんには、自閉症という障害がありました。

美容院でじっとしてられないため自宅でカットをしてもらえないかと、友人でもあるそのお子さんの母親に依頼され、ふれ合うことが多くありました。また、近くには横浜市十日市場地域ケアプラザがあり、そこへ通っている障害のある方々を日頃からみかけることも多かったのです。

そんな日常から、福祉に関わる意識は生活の中で自然に育まれていきました。

二児の母となった長女の翔子さんは、自分の子どもが生まれたことでベビーカーの使用の際にスロープを探したり、歩道に自転車が置かれて通れないことがあったり、不便さを感じるがありました。

点字ブロックに自転車が置かれているのを見かけると、障害のある方が同じように不自由な思いを感じているのでは、と不安になります。これまで作品を作ってきたことで、いつの間にか障害のある方の目線で考えるようになったのです。

多くの方に支えられたともしびポスター・絵本コンテストは確実に参加者の心にともしびとして灯り、その心がみんなでもとに生きる社会を築いています。

(地域福祉推進担当)



右上から時計回りに翔子さん(25歳)、竜也さん(22歳)、真吾さん(20歳)、穂子さん(17歳)。自分のお気に入りの作品を手に



私が1才の時、小3だった姉が入賞し、表彰式に同伴してから毎年、表彰式に行くようになり、今年で17回目になります。4人兄弟で入賞した作品は35点。ともしびが無かったら、福祉についてこんなに毎年考える事無かったと思います。今年でポスター・絵本が無くなるのは悲しいですが、私の17才までの16年間の思い出になりました。ありがとうございました

石川 まり子

穂子さんから心温まるメッセージが寄せられました



これまでの入賞作品の一部を集めました

福祉の動き



○全国の動き ◇県内の動き ★本会の動き

6	5	4	3	2	1
<p>◇75歳以上の高齢者に対し、認知機能検査の強化を柱とする改正道路交通法が成立②</p> <p>○労働政策研究・研修機構が「第3回(2014)子育て世帯全国調査」結果を公表。ひとり親世帯の約6割が税込所得300万円未満の低所得であることが判明⑥</p> <p>◇県が人の力のみで抱えあげない介護・看護を推進する「神奈川県らくらく介護宣言」を発表</p> <p>◇県が里親家庭の支援拠点「里親センター」を海老名市に開設</p> <p>◇県が大規模災害発生時に被災現場へ向かい、高齢者や障害者らを支援する「災害派遣福祉チーム」の創設を検討⑦</p> <p>◇横須賀市がひきこもり支援に「社会的居場所づくり貢献事業所」の登録証交付⑦</p>	<p>○総務省がまとめた人口推計で、14歳以下の子どもの数は34年連続で減少し1千617万人</p> <p>○内閣府が、幼稚園と保育所機能を併せ持つ認定こども園が前年度1千360カ所から2千836カ所に倍増と発表</p> <p>◇かながわ国際交流財団が保育士を目指す外国につながる子どもたちへの給付型の奨学金制度を設立⑥</p> <p>★福祉施設等新任職員合同研修開催</p>	<p>○生活困窮者自立支援法施行。自立相談支援、就労準備支援、就労訓練、住宅確保給付金、子どもの学習支援事業開始</p> <p>○生活福祉資金貸付制度の一部見直し。生活困窮者自立支援制度との連携を図る④</p> <p>○改正介護保険法施行、介護報酬改定。地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化を目指す</p> <p>○障害福祉サービス等報酬改定。障害児・者の地域移行・地域生活の支援を目指す</p> <p>○子ども・子育て支援新制度開始</p> <p>◇県が手話言語条例を施行</p> <p>◇県が「かながわ高齢者保健福祉計画」「神奈川県障害福祉計画」を改定。「かながわ子どもみらいプラン」を策定</p> <p>◇県立かながわ男女共同参画センター(旧かながわ女性センター)が「かなテラス」として再スタート⑤</p> <p>★新任保育士激励会開催</p>	<p>○内閣府が少子化社会対策大綱を策定。結婚・出産の希望実現へ</p> <p>○厚労省が改正障害者雇用促進法に基づき、「障害者差別禁止指針」「合理的配慮指針」を策定</p> <p>○川崎市の中学生殺害事件を受けて、文科省が「児童生徒の安全に関する緊急確認調査」結果を公表④</p> <p>◇県が「神奈川県子ども貧困対策推進計画」を策定</p> <p>◇県が「未病を治す」取り組みを体験・実践できる「未病センター」の第1号を決定⑤</p> <p>★「社協の総合相談」を進めるために6つの実践事例とリーダー層職員の動きのヒント」作成⑥</p> <p>★事例から学ぶ「権利擁護相談」―権利擁護相談事例集―作成</p>	<p>○厚労省が「社会保険審議会福祉部会報告書」社会福祉法人制度改革について」を公表③</p> <p>○厚労省の福祉人材確保専門委員会報告書「2025年に向けた介護人材の確保」で、2025年には約30万人の介護人材が不足と推計</p> <p>○厚労省が高齢者虐待対応等に関する調査結果(平成25年度)を公表。養介護施設従事者等による虐待が本県は全国最多26件③</p> <p>○障害者総合支援法に基づく就労継続支援A型事業所の全国組織として、(N)就労継続支援A型事業所全国協議会設立</p> <p>◇全国初の「子ども権利擁護センターかながわ」が伊勢原市に設立⑤</p> <p>★第32回神奈川県障害福祉職員実践報告会開催④</p> <p>★青少年問題を考える集い開催③</p>	<p>○厚労省が若年性認知症施策の強化、介護者への支援等7つの柱で構成する「新オレンジプラン」を策定</p> <p>○厚労省が「保育士確保プラン」を策定。平成29年度末には約6万9千人の保育士が不足と推計</p> <p>★第38回神奈川県福祉作文コンクール表彰式開催②</p> <p>★「個と地域の一体的支援のためのケースカンファレンス」ハンドブック、DVD「地域を支える市民後見人の活動」作成⑤</p> <p>★第三者委員活動の理解促進に向けたリーフレット「事業者の皆さんに、とってほしい話」作成⑤</p>
<p>▽大阪都構想を問う住民投票。きん差で否決</p> <p>▽口永良部島新岳が噴火。箱根山で火山活動が活発化</p> <p>▽東芝で不適切会計が発覚</p> <p>▽川崎の簡易宿泊所が火災</p> <p>▽日本年金機構が個人情報流出を発表</p> <p>▽東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のセーリング競技が、藤沢市の江の島で開催決定</p> <p>▽公職選挙法改正案が可決。18歳選挙権が平成28年参院選から適用</p>					<p>▽阪神・淡路大震災から20年</p> <p>▽横綱白鵬が史上最多優勝</p> <p>▽イギリス王室のウィリアム王子が日本初訪問</p> <p>▽川崎市で中学生殺害事件</p> <p>▽iPS細胞で視神経細胞作製に世界初の成功</p> <p>▽1961年に消息を絶った旅客機をアンデス山脈で発見</p> <p>▽東日本大震災から4年</p> <p>▽北陸新幹線長野―金沢間が開業</p> <p>▽渋谷区が全国初の同性カップルの条例可決・成立</p> <p>▽東洋ゴム工業(株)が免震ゴムでテータ改ざん</p> <p>▽原発計5基の廃炉決定</p> <p>▽ラグビーワールドカップ2019の開催都市に横浜市・神奈川県が決定</p>
<p>福祉関連の動き (○付き数字は本紙での関連記事掲載月)</p>					
<p>社会の動き・事件・事故</p>					<p>社会の動き・事件・事故</p>



2015年

12	11	10	9	8	7
<p>○働く人の心の健康を守るための「ストレスチェック」を事業者が義務付ける制度開始</p> <p>◇県が「神奈川県ひとり親家庭アンケート」の結果（速報）を発表。約5割がパート・アルバイト・非正規職員、約3分の1が1年間の収入が100万円台だったことが判明</p> <p>★社会福祉法人による平成27年度第2回社会貢献活動推進会議開催</p> <p>★かながわ福祉サービス運営適正化委員会「苦情解決研修会」開催</p> <p>★第36回ともしびポスター・第29回ともしび絵本コンテスト表彰式開催</p>	<p>★第26回全国福祉医療施設大会を横浜で開催</p> <p>○厚労省が特別養護老人ホームなど6種類の介護サービスについて、現在の整備計画に約6万人上乗せし、2020年代初頭までに約40万人の利用整備計画を公表</p> <p>○（N）フードバンク山梨による呼びかけで、全国13の団体により「全国フードバンク推進協議会」設立⑫</p> <p>◇茅ヶ崎市が「茅ヶ崎市犯罪被害者等支援条例」を施行</p> <p>★第13回地域福祉推進セミナー「子どもの貧困・貧困から生じる子どもの生活課題にどう立ち向かうか」開催⑫</p> <p>★児童福祉施設協議会DVD「神奈川県児童福祉施設紹介映像」、老人福祉施設協議会DVD「伝えたい想いがある」心を受け継ぐ人がいる」作成⑫</p>	<p>★第64回県社会福祉大会開催⑪</p> <p>○厚労省が、平成26年度全国児童相談所の児童虐待相談対応件数が8万8千931件で、速報値で過去最多と公表⑪</p> <p>○厚労省が虐待を受けた子どもから事情を聞く際に、児相・警察・検察が共同で面接することを求める通知を発表⑫</p> <p>○文科省が軽度の障害のある生徒が通常学級に在籍し、別室で障害に応じた指導を受けられる制度を高校に導入検討⑫</p> <p>◇県が国家戦略特区を活用し、「地域限定保育士試験」（合格後3年間は勤務場所を県内に限定）を全国で初めて実施</p> <p>◇県教育委員会が（社）神奈川県ビルメンテナンス協会と、県立特別支援学校高等部生徒の就労促進に向けた協定締結⑪</p> <p>◇横浜市が性的マイノリティの方々の困難などを解消するため、個別専門相談事業と交流スペース事業開始⑪</p>	<p>★セルフヘルプ相談室等利用グループ交流会を開催⑪</p> <p>○厚労省が「新たな子ども家庭福祉のあり方に関する専門委員会」を立ち上げ、児童福祉法改正に向けて議論⑩</p> <p>○厚労省が「新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチーム・幹事会」を開催。「誰もが支え合う地域」の構築に向けた福祉サービスの実現―新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン―を公表⑩</p> <p>○厚労省が若年性認知症の人や家族を支援するため、平成28年度から都道府県に専門のコーディネーター配置を発表</p> <p>◇横浜市がダブルケア諸問題解決をテーマに、横浜国立大学、横浜市男女共同参画推進協会との共同研究会実施を発表⑩</p> <p>★台風18号関東・東北豪雨で9市町の災害ボランティアセンターが開設。本会職員を茨城県常総市へ派遣⑩</p>	<p>★「平成27年度社会福祉制度・施策に関する提言」を作成。厚労省、県等へ提出⑨</p> <p>○文科省の実態調査でフリースクールなど民間教育団体・施設に通う義務教育段階の子どもは6万4千196人⑨</p> <p>○厚労省が終末期医療の相談支援事業の体制整備を来年度から全国200カ所程度の医療機関で実施する方針を発表⑨</p> <p>◇県がひとり親世帯の生活実態を把握するため、児童扶養手当の全受給者（約6万人）を対象にアンケート調査を実施⑨</p> <p>◇県が子宮頸がん予防ワクチン接種後の健康被害への県独自の支援制度を創設</p>	<p>★第14回かながわ高齢者福祉研究大会開催⑧</p> <p>○厚労省が児童相談所全国共通ダイヤル189（いちはやく）の運用開始</p> <p>◇難病医療費助成制度の対象疾病が306疾病に拡大</p> <p>◇横浜市保土ヶ谷区内にある3病院が高齢患者への包括的な医療提供に向けて地域医療連携協定を締結⑧</p>
<p>▽日本が113番目の元素の命名権獲得</p> <p>▽東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場の設計・施工業者が決定</p> <p>▽スターウォーズエピソード7公開</p>	<p>▽3年半ぶり日韓首脳会談</p> <p>▽中国「一人っ子政策」廃止</p> <p>▽日本郵政グループが東京証券取引所「一部上場」</p> <p>▽初の国産ジェット機MRJが初飛行</p> <p>▽初の国産ロケットによる商業衛星打ち上げ</p>	<p>▽マイナンバーの通知開始</p> <p>▽ノーベル生理学・医学賞に大村智さん、物理賞に梶田隆章さんが受賞</p> <p>▽環太平洋経済連携協定(TPP)の大筋合意</p> <p>▽世界体操で日本男子が37年ぶり金</p> <p>▽沖縄県知事が名護市辺野古沿岸部の埋め立て承認を取り消し</p> <p>▽横浜市内にある大型マンションで基礎工事のデータ改ざん発覚</p>	<p>▽ラグビーワールドカップ2015」が開幕。日本3勝の歴史的快挙</p> <p>▽東京五輪エンブレムを撤回し再公募に</p>	<p>▽安全保障関連法案の可決・成立</p> <p>▽国勢調査2015実施</p> <p>▽福島県楢葉町の避難指示が解除</p> <p>▽「スーパーマン」と皆既月食が32年ぶりに重なる</p> <p>▽「ラグビーワールドカップ2015」が開幕。日本3勝の歴史的快挙</p> <p>▽東京五輪エンブレムを撤回し再公募に</p>	<p>▽戦後70年</p> <p>▽欧州難民問題が深刻化</p> <p>▽第97回全国高等学校野球選手権大会で東海大学附属相模高校が1970年以来45年ぶり2度目の全国制覇</p> <p>▽学生団体「SEALDs」呼びかけによる反安保デモ</p> <p>▽アメリカ・キューバ両国が54年ぶり国交回復</p> <p>▽「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録決定</p> <p>▽宇宙飛行士油井亀美也さんがソユーズ宇宙船で国際宇宙ステーションへ</p> <p>▽新国立競技場の建設計画を白紙撤回</p>

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

情報技術の成果を障害のある全ての人に！ 「かながわ障害者IT支援ネットワーク」が 夢を叶えるお手伝い

目の不自由な人がスマートフォンのカメラを向けると、「コンビニの駐車場です」と音声説明。手に障害があり、パソコンのマウス操作が困難な人も、息でカーソルを上下左右に動かせる。SF小説ではありません。情報技術（IT）がもたらした成果です。

しかし、まだ一部の人にしか届いていません。地域に根差した支援が必要です。今回は、視覚に障害のある人のIT活用事例と、IT支援を目指す本県の取り組みを紹介します。

❖目が不自由な人はどうやってパソコンを使うの？

目が見える人が画面を見ながらマウスやキーボードを使ってパソコンを操作するのにに対し、目が不自由な人は、画面の文字を読み上げる音声化ソフト「スクリーンリーダー」を頼りに、キーボードだけでパソコンを操作します。

新聞や書籍など紙に印刷された文字は読めませんが、インターネットの文字情報ならこの方法で読むことができます。点訳や音声訳された特別なコンテンツではなく、目が見える人と同じホームページにアクセスして最新のニュースを読んだり、通販や旅行予約、インターネットバンキングなどを利用できるようになりました。文字の入力は、かな漢字変換すると「平和」は、「へいわのへい たいら」「へいわのわ なごやか」のように漢字の説明を聞くことができます。

❖視覚に障害のある人を支援する数々のスマートフォンアプリ

目が不自由な人にとって、凹凸のボタンが少ないスマートフォンのタッチパネルは、決して使いやすいものではありません。しかし、最近ではスマートフォン用のスクリーンリーダーを活用する人が増えてきました。そして、お札を識別して音声で伝えるソフトウェア、カメラを向けたものが何かを教えてください。画像認識カメラ、



お札をスマートフォンで読み取っている様子

今月は

⇒ (N)神奈川県障害者自立生活支援センター

がお伝えします！

通称KILC（キルク）。1997年4月設立。障害者の自立生活を目指してピアカウンセリング（障害者による相談事業）や各種情報提供、障害者施策の研究・提言など障害当事者の目線で共生社会の実現を目指した活動を展開。現在、厚木・平塚等4カ所の事業所で活動中。

〈連絡先〉〔法人本部〕厚木市愛甲1-7-6
☎046-247-7503 FAX046-247-7508
URL <http://www.kilc.org> info@kilc.org

現在地周辺の交差点やレストランなどを音声ガイドするGPSナビなどのアプリケーションソフトウェアを利用して、「見えなくても見たい」「楽しく歩きたい」という夢を一つずつ実現しようとしています。

❖「かながわ障害者IT支援ネットワーク」の取り組み

パソコン教室や一般のマニュアル書の利用が難しい目の不自由な人にとって、IT機器を使いこなすのは非常に困難なことです。スマートフォンを利用したいけれど現在利用できていない人に理由を尋ねたところ、「ノウハウやマニュアルなどの情報が少ない」「実際に試す（触る）機会がない」等と答えています。

障害のある人のITの習得には、ボランティアの方々への技術サポートが不可欠です。県は障害者IT利活用推進事業「かながわ障害者IT支援ネットワーク」を実施しており、障害当事者やその家族、事業所からの支援依頼に応じて登録ボランティアを派遣し、IT機器やインターネットの設定、ソフトの使い方の説明を行っています。IT支援ボランティアになりたい方には、1日間の養成研修に参加の上、「支援団体」に登録していただきます。

障害のある人が気軽にITを習得し、生活の幅が広がることが期待されています。

インフォメーション

■かながわ障害者IT支援ネットワーク

〈受託者〉（公社）かながわ福祉サービス振興会

【利用相談窓口】HPの専用フォームもしくは☎・FAXで相談

☎046-247-7503（受付時間：午前10時～午後5時）

FAX046-247-7508 URL <http://shien-network.kanafuku.jp/>

福祉最前線

—現場レポート—

◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

地域ケアプラザでのダブルケアへの取り組み

育児と介護を同時期に抱えるダブルケアに直面する世帯が、女性の晩婚化、晩産化に合わせて増えています。片倉三枚地域ケアプラザでは、このダブルケアの問題への取り組みを始めています。

当事者の多くが口にするのは、「ママ友には介護のことは話せない」ということです。この言葉ほどダブルケアの状況を象徴する言葉はないのではないのでしょうか。多くのダブルケアラーは、抱えている思いを共有できる相手がいないのです。ダブルケアラーは孤立しているともいえます。

昨年、片倉三枚地域ケアプラザでは、個別ケースの地域ケア会議でこの問題を取り上げ、さらに包括エリアの地域ケア会議を行い、広く地域の課題として共有する取り組みを行いました。そして10月10日に第1回ダブルケア・カフェを開催し、12月13日には第2回目を開催。カフェでは当事者の皆さんから多くの語りがあり、お互いの話を聴き、情報交換を行いました。次回は今年の3月頃を予定しておりますが、少しでも当事者の皆さんの情報交換とエンパワーメントの場になることを願っています。

もう一つ当事者からよく聞かれる言葉は、「制度がそれ

(福)若竹大寿会 横浜市片倉三枚地域ケアプラザ
主任介護支援専門員 小藪基司



地域ケアプラザは、横浜市独自の地域ケア施設で、地域包括支援センター、地域活動交流、デイサービス、居宅介護支援事業所などの機能があります。片倉三枚地域ケアプラザは平成12年に開設以来、地域の皆さまと共に地域作りを考えてきました。

〈連絡先〉〒221-0862 横浜市神奈川区三枚町199-4
☎045-413-2571 FAX 045-413-2573 URL <http://www.katakura-c-waka.jp/>

それに分かれていて使いにくい。分かりにくい」というものです。育児制度と介護制度は同じケアに関わる制度ですが、それぞれが独立しており、情報収集や利用相談から手続き、実際の利用までを別々の機関で行うこととなります。実際にダブルケア状況にあり、例えば認知症の父親の介護をしながら2歳児と0歳児を育てているような方には、それぞれゼロからの相談で始まるサービス利用の手続きや、その後のマネジメントは大変な負担です。せっかくある制度を上手く活用できないのです。

地域包括支援センターではダブルケアラーの方への相談も行っていますが、介護相談（介護保険制度の利用）のみに焦点を当てていると、その方の抱えている問題に添えない可能性があります。あくまでもそのご家庭全体の状況をしっかり捉え、育児制度などが上手く使えているのかも見ていく必要があります。例えば行政のこども担当部局との連携も必要になってきます。

当地域ケアプラザでは、今後もケアをする人とケアを受ける人の両者が共にケアされる社会を目指し、全世代対応型地域包括ケアとでも言うような対応を目指していきたいと思っています。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成27年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

補償金額（保険金額）

年間保険料

<http://www.fukushihoken.co.jp>

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,200万円	1,800万円	
	後遺障害保険金		1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円 (限度額)	5億円 (限度額)	

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)		430円	650円

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

(普通傷害保険)

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人
全国社会福祉協議会**

(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL:03(3593)6824

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK14-16220 (2015.2.6))

第18回介護支援専門員実務研修受講試験 合格状況

平成27年10月11日に、第18回介護支援専門員実務研修受講試験を、慶応義塾大学ほか県内6カ所の会場で実施しました。

受験者数は7千593人、

合格者数は1千353人で、合格率は今回の試験から法定資格による解答の一部免除の取り扱いが廃止されたことなどもあり、17・8%と昨年度より3・9ポイント下回る結果となりました。

合格者は介護福祉士が約7割を占め、その他の福祉・介護分野を合わせ

ると8割を超えています。

合格者の平均年齢は43・7歳で、男性では30歳代、女性では50歳前後の割合が高い状況となっています。

合格者が受講する実務研修は2月3日（水）から、本会並びに横浜市社協で実施予定です。

なお、介護支援専門員の更なる資質の向上を目指し、28年度からの実務研修は受講時間が87時間となり、新たな科目も加えられ、演習が増えるなど研修内容が大幅に変更されます。

（福祉研修センター）

平成27年度介護支援専門員実務研修受講試験 職種(資格)別合格状況

職種	合格者数(人)		比率(%)	
	()内は昨年度	()内は昨年度	()内は昨年度	()内は昨年度
介護福祉士	945	(1,406)	69.9	(70.3)
看護師	98	(107)	7.2	(5.4)
社会福祉士	75	(158)	5.6	(7.9)
相談援助業務従事者	43	(51)	3.2	(2.6)
介護等業務従事者	39	(62)	2.9	(3.1)
理学療法士	33	(43)	2.4	(2.2)
作業療法士	25	(33)	1.9	(1.6)
あん摩マッサージ指圧師	15	(17)	1.1	(0.8)
薬剤師	12	(22)	0.9	(1.1)
栄養士(含む管理栄養士)	11	(31)	0.8	(1.5)
保健師	10	(13)	0.7	(0.7)
歯科衛生士	10	(9)	0.7	(0.4)
柔道整復90	10	(7)	0.7	(0.3)
歯科医師	8	(5)	0.6	(0.2)
精神保健福祉士	6	(12)	0.4	(0.6)
准看護師	4	(12)	0.3	(0.6)
はり師	4	(6)	0.3	(0.3)
医師	3	(2)	0.2	(0.1)
助産師	1	(1)	0.1	(0.1)
言語聴覚士	1	(4)	0.1	(0.2)
計	1,353	(2,001)	100.0	100.0

(視能訓練士・義肢装具士・きょうしゅ師：合格者数0人)

平成27年度第2回社会貢献活動推進会議開催。28都府県80名が参加

去る12月7日に横浜市内で、平成27年度第2回社会貢献活動推進会議を開催しました(28都府県80名参加)。これは、大阪の社会福祉法人による社会貢献活動(※)を参考に、同様の取り組みを進めていこうと考えた4都府県連絡会(大阪・神奈川・埼玉・東京)が前身となります。

前半では、今年度から事業を開始した熊本・香川・大分からの状況報告。後半では、県立保健福祉大学教授の河幹夫さんにコーディネーターをお願いし、大阪・神奈川・埼玉の事例報告を基に、社会福祉法人としての使命、困窮者支援への柔軟性ある対応の意義を共有しました。最後に、本会議での種火が全国へ広がり、社会に必要な取り組みとして広がっていくことを願い閉会となりました。(ライフサポート担当)



各府県の報告からヒントを学ぶ参加者

(※)社会福祉法人が自主的・主体的に参加し、様々な生活課題を抱えた方に対して総合的な生活相談支援を実施。本会では「かながわライフサポート事業」として展開

高齢者や身体の不自由な方のための【緊急通報サービス】を当社では格安で提供しております。関心のある方や希望される方はお気軽にお問い合わせ下さい。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 **岡本 誠一郎**

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理事 伊藤 正孝 ☎045-412-2110

同 辻村 祥造 ☎045-311-5162

同 西迫 一郎 ☎046-221-1328

同 林 雄一郎 ☎0466-26-3351

代表理事 八木 時雄 ☎042-773-9266

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)6902
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598
http://www.kki.co.jp/

本会主催

第5回福祉のしごとフェア のご案内

- ◇日時=平成28年2月24日(水)
【福祉の職場就職支援ガイダンス】
午前10時30分～正午
【就職相談会】午後1時～4時
- ◇会場=横浜新都市ビル(そごう横浜店)9階内
【福祉の職場就職支援ガイダンス】
ミーティングルームNo.3
【就職相談会】新都市ホール
- ◇対象=福祉の仕事に関心のある方や福祉分野に就職を希望される方
- ◇問合先=かながわ福祉人材センター
☎045-312-4816 FAX 045-313-4590
Mail jinzai@knsyk.jp
URL http://www.knsyk.jp/jinzai/

本会主催

第14回地域福祉推進を考える セミナーのご案内

- ◇テーマ=アルコール依存症の回復への道のり～アルコール依存症は病気です～
- ◇日時=平成28年3月25日(金)午後1時30分～4時(開場午後1時)
- ◇会場=県社会福祉会館2階講堂
- ◇参加費=無料
- ◇定員=150名
- ◇申込方法=申込書にご記入の上、
FAXまたはMailにて
- ◇申込締切=平成28年3月11日(金)
- ◇問合先=社会福祉施設・団体担当
☎045-311-1424 FAX 045-313-0737
Mail sisetu@knsyk.jp

七つ星・交流サロンinやま のご案内

被災地訪問メンバーによる三線の演奏、整体師によるマッサージ等交流会(軽食・飲み物付き)の開催

- ◇日時=平成28年2月11日(木)
午前10時～午後3時
- ◇会場=大和市保健福祉センター3階
- ◇対象=県内に避難されている方
- ◇申込方法=不要・直接会場まで
- ◇問合先=(N)よこはま・七つ星
☎090-5426-8012(高松)
080-1696-1151(小畑)
URL http://www.ac.auone-net.jp/nanana7/

全国ボランティアコーディネーター 研究集会のご案内

- ◇日時=平成28年3月5日(土)
午前10時～3月6日(日)午後3時30分
- ◇会場=福祉保健研修交流センターウィリング横浜
- ◇参加費=一般13,000円、JVCC正会員・準会員11,000円
- ◇定員=250名
- ◇申込方法=申込フォームまたは、申込書にご記入の上、郵送かFAXにて
- ◇申込締切=平成28年2月5日(金)午後5時必着
- ◇問合先=全国ボランティアコーディネーター研究集会2016実行委員会事務局
☎03-5225-1545 FAX 03-5225-1563
Mail jvcc2016@jvca2001.org
URL http://www.jvcc2016.com

第27回アディクション・セミナー In YOKOHAMAのご案内

- さまざまな依存症に悩む本人や家族が回復のために参加する自助グループ等による体験談及びミーティングが体験できるセミナーの開催
- ◇日時=平成28年3月6日(日)
午前10時～午後4時30分
 - ◇会場=男女共同参画センター横浜(フォーラム)
 - ◇参加費=500円

- ◇申込方法=事前申込不要
- ◇問合先=アディクション・セミナー実行委員会事務局
☎080-4329-9607
Mail as_yokohama26@softbank.ne.jp
URL http://addiyoko.jimdo.com/

横浜いのちの電話 春の映画会

- 横浜いのちの電話が行う、24時間休まず人々の悩みや不安を聴く活動を支えるためのコンサートを開催
- ◇日時=平成28年3月11日(金)
昼の部 午後2時30分
夜の部 午後6時30分
 - ◇会場=戸塚区民文化センターさくらプラザホール(全席自由)
 - ◇チケット代=前売券1,000円、当日券1,200円
 - ◇問合先=(福)横浜いのちの電話
☎045-333-6163 FAX 045-332-5683

助成金申請受付中!

当事者組織や広域的なボランティアグループ等による住民主体の支え合い活動に対し、経費の一部を助成します。

◆助成額等

助成金額は対象経費総額の5分の4以内とし、80万円を上限

◆申請期限

平成28年3月15日(火)

詳細は本会ホームページ「助成金情報」をご確認ください

神奈川県社協 助成金 検索

【問合先】地域福祉推進担当
☎045-312-4815 FAX 045-312-6307
URL http://www.knsyk.jp/

— 社会福祉施設の設計監理 —

株式会社 安江設計研究所

東京都港区高輪 2-19-17-808
Tel 03 (3449) 1771(代) / Fax 03 (3449) 1772
E-Mail yasue@yasue-sekkei.co.jp
URL http://www.yasue-sekkei.co.jp/

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・
アスベスト調査等お気軽にご相談ください

田圃の事ならおまかせください
●パンフレット・冊子・写真
●お祝い状・お礼状
●お祝い状・お礼状
●お祝い状・お礼状

お気軽にご相談ください!

株式会社 **あんざい**
横浜市港南区下永谷3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp

第29回ともしび絵本コンテスト「ともしび大賞」受賞作品

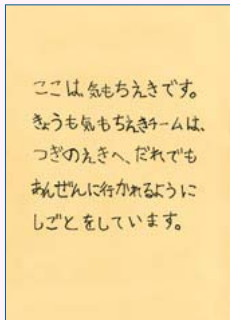
『気もちえきチーム
の大きやく』



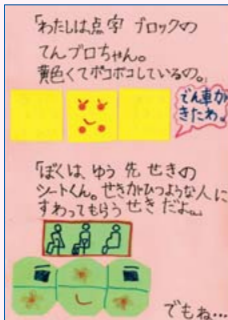
秦野市立鶴巻小学校
2年 伊東千織さん

第29回ともしび絵本コンテストで「ともしび大賞」を受賞した伊東千織さん。駅や電車の中にあるユニバーサルデザインに着目し、触って楽しめるよう工夫をした作品になっています。絵本作成のためにいくつもの駅をめぐるって調べたという、熱心さと行動力に驚かされます。

絵本にある「こころえき」「気もちえき」「あたたかえき」には、誰でもみんなが駅を気持ちよく利用してほしいという、伊東さんが願う思いやりの気持ちが表現されています。
(地域福祉推進担当)



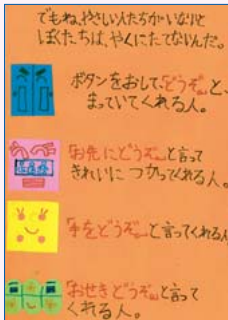
1
ここは、気もちえきです。
きょうも気もちえきチームは、
つぎのえきへ、だれでも
あんぜんに行かれるように
しごとをしています。



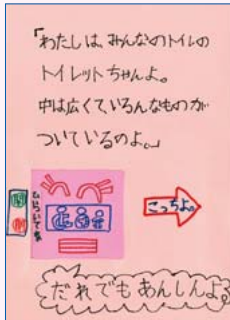
4
「わたしは、点字ブロックの
てんプロちゃん。
黄色くてポコポコしているの。」
「でん車がきたわ。」
「ぼくは、ゆう先せきの
シートくん。せきがみつような人に
すわってもらうせきだよ。」
でもね……



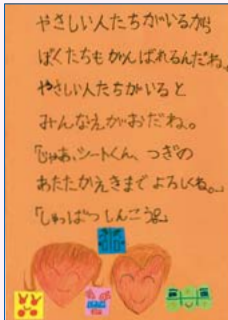
2
「ぼくはエレベーターの
エレベくん。
中には、かがみと手すりがつ
いているんだ。」
「さあ、のって！」



5
でもね、やさしい人たちがいないと
ぼくたちは、やくにたてないんだ。
ボタンをおして、「どうぞ」と、
まていてくれる人。
「お先にどうぞ」と言って
きれいにつかってくれる人。
「手をどうぞ」と言ってくれる人。
「おせきどうぞ」と言って
くれる人。



3
「わたしは、みんなのトイレの
トイレちゃんよ。
中は広くていろんなものが
ついているのよ。」
「だれでもあんしんよ。」



6
やさしい人たちがいるから
ぼくたちもがんばれるんだね。
やさしい人たちがいると
みんなえがおだね。
「じゃあ、シートくん、つぎの
あたたかえきまで、よろしくね。」
「しゅっぱつしんこう！」

医療・福祉界の健全発展に資することが私たちの使命です。

医療・福祉業界の皆様が抱える様々な問題の解決に向けて、経営コンサルティング・税務会計・会計監査などの専門サービスを総合的に提供できる体制を整備しております。

- ◆ 福祉経営・医療経営コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関への人事コンサルティング
- ◆ 福祉施設・医療機関に特化した税務会計・代行
- ◆ 福祉施設の第三者評価事業 など

福祉施設の皆様が地域のニーズに応え、時代や政策に適切に対応できるようご支援します。お気軽にご相談下さい。



川原経営グループ
(株)川原経営総合センター／税理士法人川原経営



東京都中央区銀座8-11-11TK銀座8丁目ビル
TEL (03) 3572-3051 E-mail : info@kawahara-group.co.jp
URL : http://www.kawahara-group.co.jp/

「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています